

各務原市地域公共交通協議会

平成25年11月25日設置

調査事業の概要

◎調査事業の目的

本市の課題である全ての公共交通が一体となって機能する公共交通網を形成し、多様な交通手段が連携した一体的な公共交通ネットワークの形成と、その維持活性化に向け取り組むために、各務原市地域公共交通網形成計画を策定する。計画策定のため、公共交通の現状を整理し、市民ニーズの把握を行うため、調査事業を実施する。

◎地域特性、公共交通の概要、問題点、実施経緯

・本市は県都岐阜市及び、愛知県との県境に位置し、ものづくりの都市として発展を続けてきた。現在人口は微増を続けているが、高齢化率が年々増加し、今後も高齢者の数は増加傾向にあり、公共交通サービスの重要性が高まっていくと考えられる。

・鉄道は名鉄犬山線、各務原線の12駅、JR高山線の4駅が存している。バス交通は、岐阜乗合自動車、岐阜バスコミュニティ、名鉄バス、各務原市ふれあいバスにより、サービスされている。

・ふれあいバスは、市民要望等を受け、部分最適を優先し路線の改編、延伸をし続けてきた結果、他の公共交通との連携も十分図られてない状況となり、また、起点から終点まで約2時間かけて運行する長大路線になるなど、課題が多い路線となっている。

・以上のことから、多様な交通手段が連携した抜本的な路線の見直しが喫緊の課題となっており、地域公共交通網形成計画を作成し、路線の再編に取り組むこととした。

◎調査の主な内容

1. 地域内の公共交通に関する現況調査(乗り込み調査:利用者ヒアリング&アンケート、OD調査)
2. 地域住民のニーズ把握 (市内12地区での住民懇談会ほか)
3. 各務原市地域公共交通網形成計画のとりまとめ(パブリックコメントの実施)
4. 公共交通会議開催(3回実施)

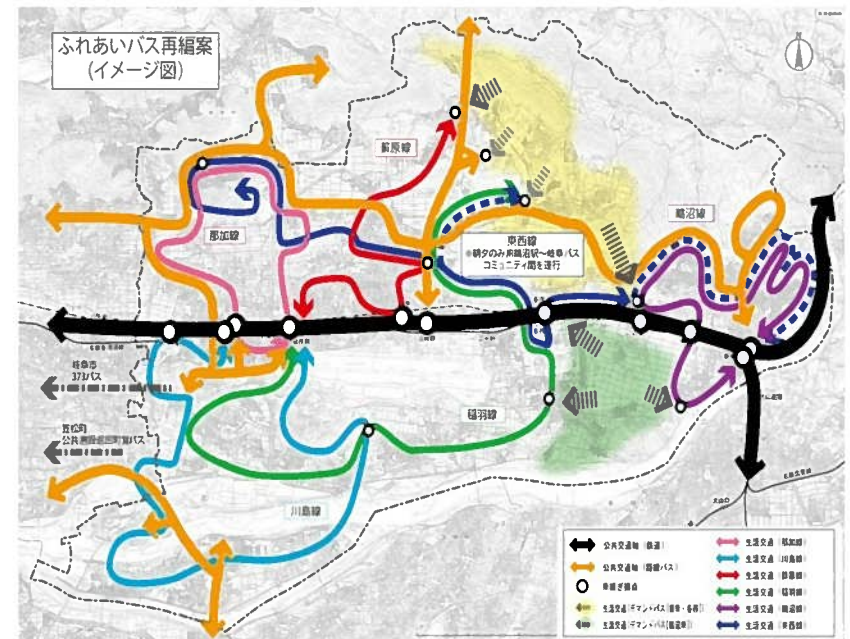
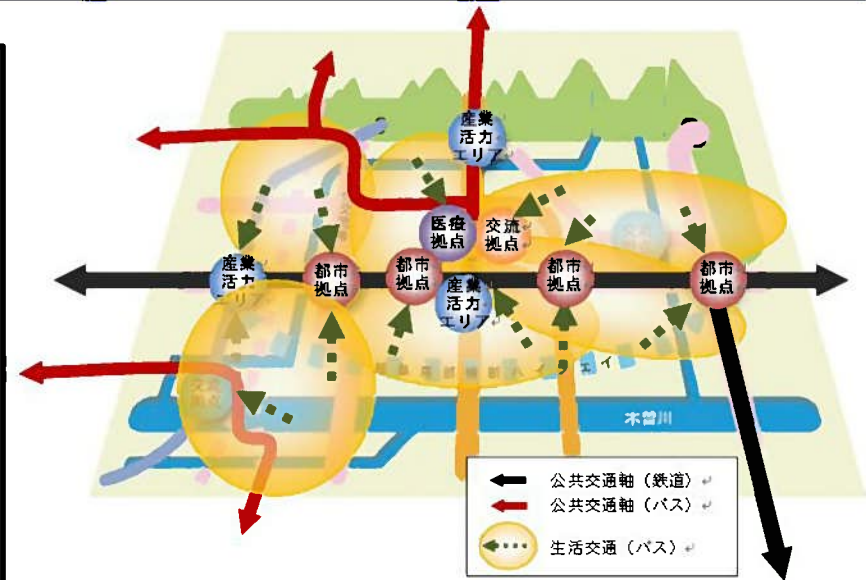
◎協議会の開催状況、議論の概要

- ・平成26年 9月 1日 調査結果報告、公共交通ネットワーク図について協議
- ・平成26年11月25日 ふれあいバス再編案、ダイヤ設定の基準等協議、住民懇談会計画
- ・平成27年 3月18日 住民懇談会報告、公共交通網形成計画について審議(予定)

◎調査結果の概要

調査結果の分析を踏まえ、地域公共交通網形成計画の策定、利用者ニーズ、実態にあった路線への改編、ふれあいバスと他の公共交通機関との連携、利用促進に向けた取り組み、三位一体の取り組みについて整理することが出来た。

今後、形成計画にもとづき、目標を達成するための事業を着実に実施し、PDCAサイクルをまわしていくことが求められる。



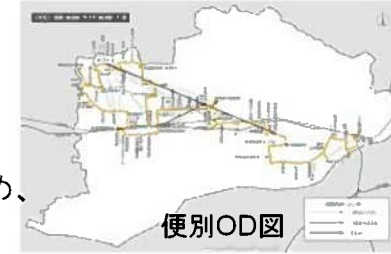
調査結果に対する分析

◎利用者ヒアリング⇒路線ごとに属性・バス停別利用者数、便ごとにOD図を作成し、具体的な利用状況について、視覚的に分析した。 ※対象:1,267人

◎利用者アンケート⇒路線ごとに属性、利用頻度、乗り継ぎの有無、目的、重要度と満足度などについて、視覚的にまとめ分析した。 ※配布644、回収295、回収率45.8%

◎住民懇談会⇒主な目的地、移動手段、課題、課題に対する提案をしていただき地域の意見をまとめ、それら提案を踏まえ、見直しをしたふれあいバス路線案に対し、質疑応答、意見交換を行った。

※市内12地区(中学校区をベースに開催)



調査結果に対する評価

◎これまで、バス路線見直しにあたって、本格的な地域内公共交通の利用実態調査などは行っていなかったが、本事業により、各路線ごとの利用実態(目的、頻度、乗り継ぎ等)、利用者のバス停間OD、満足度と重要度の関係を把握することが出来た。

◎市内各地区で実施した住民懇談会では、アンケート調査結果、利用実態調査結果等を示すことで地域住民の公共交通の現状に対する理解を深めることができた。また、市の見直しに関する考え方を明らかにし、意見交換を行うことで、バス路線の見直し方針を設定することが出来た。

◎住民ニーズや、利用実態を踏まえ、近隣市町(岐阜市、笠松町等)の公共交通との連携強化を図るとともに、鉄道や路線バス、ふれあいバス路線など、多様な交通手段が連携したバス路再編案の作成につなげることができた。また、路線見直しにあたり、ODチェックをかけることで、利用実態を踏まえた見直しとなっているかどうか確認することができた。



アピールポイント(特に工夫した点)

◎これまで、行政主導によりふれあいバスの路線改編を行ってきたが、今回始めて各地域での懇談会等による「対話」を行う事で、単なる意見聴取に留まらず、車中心の市民にも公共交通の必要性を感じていただくなど、行政、事業者、市民が三位一体として「公共交通を皆で育む」という意識の醸成を図る事ができた。

◎鉄道、路線バスを公共交通軸として位置づけ、ふれあいバスを地域と幹線とを結ぶ支線としてとらえ、両者が一体となった公共交通ネットワークを形成するとともに、近隣市町のコミュニティバスとも連携を図ることで、官民連携、市町間連携強化に資する取り組みができた。

◎居住지가分散しており、道路も整備されていないことから、バス利用が不便であった地区に、自由経路ミーティングポイント型のデマンド型交通を新たに取り入れることで、おでかけするきっかけづくりを図ることとした。

◎目標とする成果指標(バスを利用する人の割合、利用者数、不満割合)を設定するとともに、地域住民による取り組みに対するモチベーションを維持するための指標も検討中。

調査事業をふまえた計画の策定、路線の見直しの方向性等

◎本調査の結果を踏まえ、本市が目指す地域公共交通の将来像、それを実現するための事業計画を定めた地域公共交通網形成計画を策定中(平成26年度)。

◎次年度、地域公共交通網形成計画の方針に基づき、バス交通再編実施計画、生活交通ネットワーク計画を策定する予定。

■路線見直し ⇒ 運行間隔短縮、本数の増便、通院・買い物、通学など生活圏域を意識した路線への再編、観光利用目的に配慮、公共交通ネットワークの形成(市外とも連携)、鉄道との連携強化、多様な交通形態(デマンドタクシー)の導入

■利用促進 ⇒ 乗り放題券の導入、わかりやすいバスマップ作成、待ち合い環境の整備、乗り継ぎ割引制度の導入、高齢者ドライバー免許証返納者に対する優遇、バスロケーションシステム、ICカードの導入、イメージしやすい路線の名称、イメージキャラクター作成、バスに親しむイベントの実施